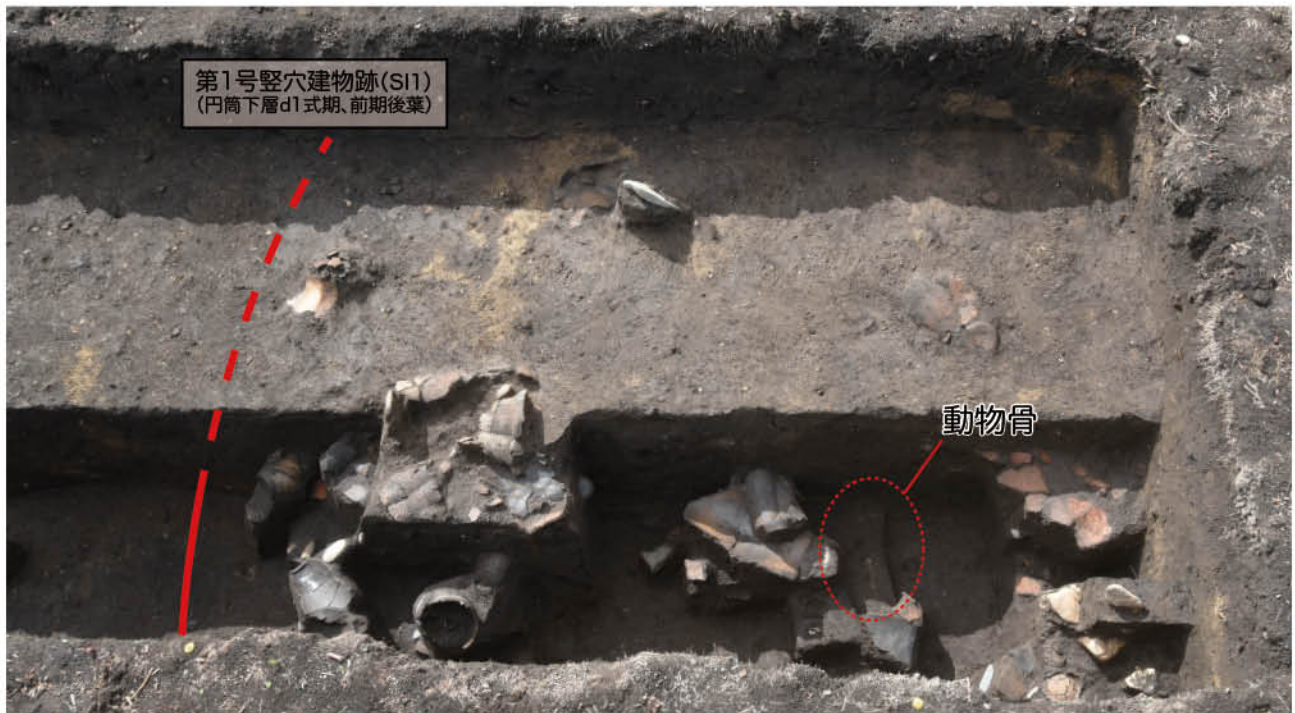


掘りday はちのへ

—八戸市埋蔵文化財ニュース第24号—



209 トレンチ第1号竪穴建物跡では、廃絶後の凹地が捨て場（前期後葉、約5,000年前）として使われていました。

縄文時代の捨て場、発見！～いちおうじ王寺遺跡～



209 トレンチ第1号竪穴建物跡の出土土器（一部）

この竪穴建物跡の埋土（捨て場）からは、縄文時代前期後葉の円筒下層d1式土器と、それに後続するd2式期の土器が多量に出土しました。

土器のほかにも、石器や石製品、動物骨なども出土しています。

現在、一王寺遺跡では遺跡南側のようすを詳しく知るため、調査を行っています。

今回調査したトレンチのうち、209 トレンチでは、多量の縄文土器や石器、動物骨などが出土しました。さらに掘り下げると竪穴建物の掘り込みがみつかったことから、竪穴建物が使われなくなった後に凹地となり、この場所が「捨て場」として利用されていたことがわかりました。

このような捨て場は他にも何カ所かみついています。縄文時代前期の捨て場は、貝塚の周辺でみつける傾向があります。（次頁へ続く）

遺構の広がりを新たに確認～いちおうじ王寺遺跡～

①縄文時代前期～後期までの集落跡を確認

これまでの調査によって、遺跡の南側では、縄文時代前期から後期までの間、繰り返し建物などが造られ、人びとが暮らしていたことが少しずつわかってきました。

竪穴建物跡は、前期には貝塚の周辺に、中期には北から東にかけての広い範囲に、後期は西側にそれぞれ広がることがわかりました。また、調査範囲の中央では、配石遺構（後期前半）や土坑、フラスコ状土坑などがみつかっています。

特に北側では、古い竪穴建物跡が埋め立てられた後、同じ場所に新しく建物が造り直されるようすが確認されています。この場所に、縄文時代の人びとが何かこだわりを持っていたのかもしれない。

②縄文時代の溝跡発見！

調査区南西側では、縄文時代の溝跡3条がみつかりました。溝跡がどのように使われたのかはまだわかりませんが、最も長いものは25m以上、幅130cm、深さ最大90cmにもなり、さらに東西に伸びると考えられます。（宇庭 瑞穂）



令和2年度調査区遠景（南東から）



溝跡（青色点線）が3条みつかりました。
左・右が縄文時代後期初頭以降、中央が時期不明。



一王寺遺跡南側の遺構の広がり



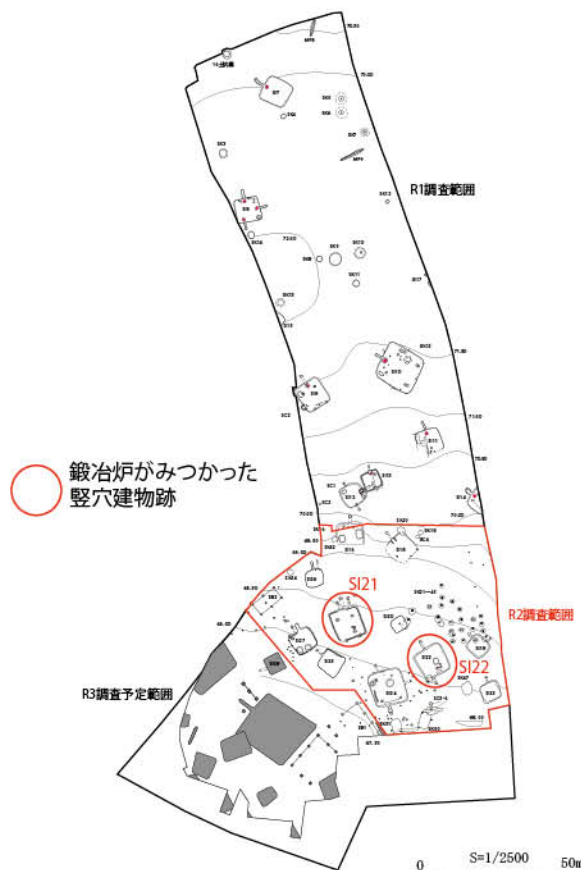
平安時代の集落跡～石橋遺跡～

石橋遺跡は、八戸市中心市街地から南東に約4km、新井田川右岸の標高47～72mの丘の上に立地しており、縄文時代から近世までの遺構・遺物が確認されている遺跡です。令和2年度は遺跡南側の緩斜面の発掘調査を行い、^{ほったてばしらたてものあと}堅穴建物跡や掘立柱建物跡、土坑など多くの遺構がみつかり、なかでも、平安時代の堅穴建物跡が多くみつっています。これらの堅穴建物跡は、一辺が約3～5mの規模で、建物の向きが北西を向くものと北北西を向くものがあり、造られた時期に違いがあると考えられます。また、ほとんどの堅穴建物跡で北西側にカマドが造られており、中には同じ方向や北東側・南東側にカマドの造り替えが行われた堅穴建物跡も確認されました。

特に今回の調査では、^{かじろ}鍛冶炉をもつ堅穴建物跡がみつかったことが大きな成果です。鍛冶炉は建物の床面を掘り^{くぼ}窪めて造られており、炉の使用によって床面が火を受けたようすが確認できました。さらに鍛冶炉の周りからは、「^{たんぞうはくへん}鍛造剥片」と呼ばれる、鉄を叩いたときに飛び散る薄い板状の鉄片や、鉄を溶かした際に出る不純物が固まった鉄滓が大量にみつかったほか、鉄を打つのに使う^{かなとこいし}金床石と考えられる石や、ふいごの^{はぐち}羽口もみつかりました。

調査によって、このあたりが鉄製品の生産や加工などの小鍛冶を行う人びとが暮らした集落であったということがわかりました。また、遺跡の南側斜面に堅穴建物跡をはじめとする遺構が集中してみつかるということもこの遺跡の特徴だとわかりました。令和3年度に調査を行う予定の範囲は、さらに堅穴建物跡の分布密度が高くなるため、調査成果に期待が高まります。

(山田 貴博)



遺跡南側の斜面に、特に建物などが集中しています。



鍛冶炉が見つかった堅穴建物跡 (SI21)
点線部分で鍛冶炉跡がみつかりました。



鍛冶炉跡
内部が強い熱を受けて、土が青味がかっています。

江戸時代の町とその暮らし～八戸城跡～

はちのへじょうあと

八戸城跡は八戸市庁から JR 本八戸駅周辺に位置し、江戸時代に八戸藩の藩主御殿や藩庁が置かれた「本丸」、藩主一族や有力家臣の屋敷地とされた「二の丸」、そしてそれらの区域（郭）を区分けした「堀」があった遺跡です。

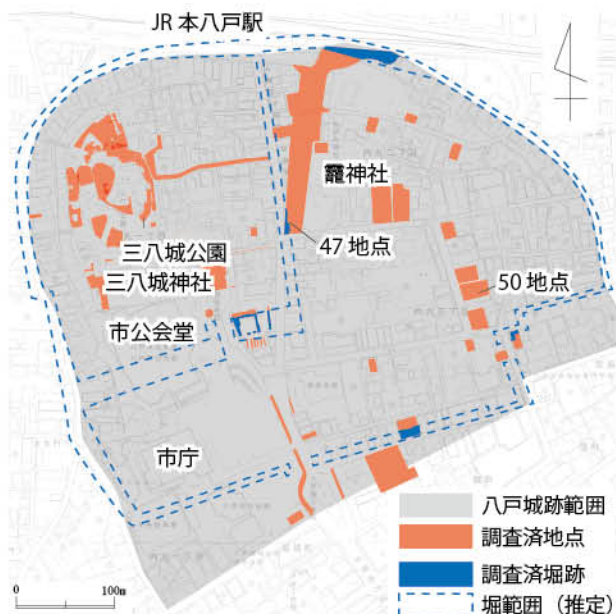
本遺跡は、例年市内でも発掘調査件数が多く、令和2年度は8ヵ所あり、面積にして約1,700㎡の発掘調査を行いました。

第47地点では大きな溝跡の一部がみつき、江戸時代の絵図から「本丸」と「二の丸」を区切る「内堀」と判明しました。検出した「内堀」の埋まりかたをみると、砂状の土が繰り返し重なり積もっています。この砂状の土は

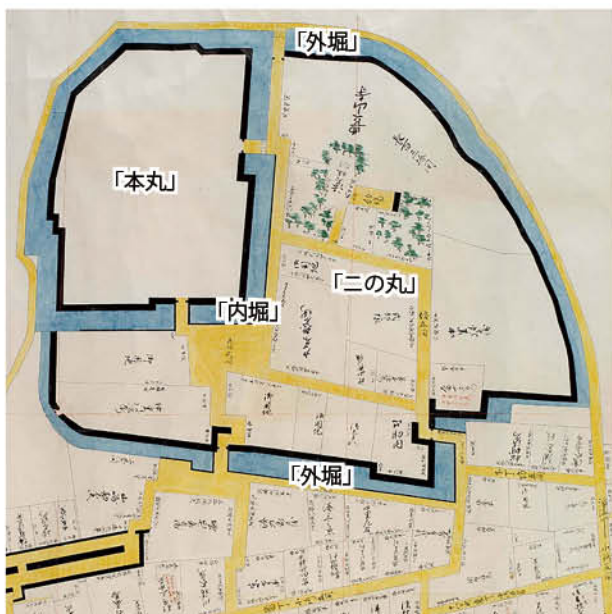
水の流れにより運ばれて堆積したと推定されることから、水堀であったとみられます。また、その土から明治時代以降のうつわの破片が出土したことから、明治時代にはまだ「内堀」の形が残ってことがわかりました。

続いて、第50地点のうつわの破片や釘などが大量に捨てられていたゴミ穴からは、ガラス製のかんざしや銅製の香道具（灰押）といった珍しい遺物が出土しています。この場所は「二の丸」の代々家老職などを勤めた、重臣「中里家」屋敷地とみられ、その風雅な暮らしぶりが垣間見えます。

（苧坪 祐樹）



発掘調査状況と堀の推定図（八戸城跡）



八戸南部家文書「藩政時代八戸市街図」抜粋（八戸市図書館蔵）



内堀跡の堆積状況



ガラス製のかんざし

銅製の香道具（灰押、1/3）

工業団地開発前の調査～八戸北インター第2工業団地予定地～

八戸北インター第2工業団地は、八戸市中心市街地の北西約5.5kmの、標高約80mの丘陵上に開発が予定されています。開発範囲内には、笹ノ沢(1)遺跡、笹ノ沢(2)遺跡、笹ノ沢(4)遺跡、杉子沢(1)遺跡、平(2)遺跡の5カ所の遺跡が存在するため、八戸市では開発範囲のうち約23万㎡を対象に、平成30年度から埋蔵文化財の有無を確認する調査を実施しています。

令和2年度は、もともと畑だった部分を中心に調査を実施しました。その結果、縄文時代の落とし穴と考えられる溝状土坑や、古代の竪穴建物跡を確認しました。遺物は、縄文土器や石器、古代の土師器が出土しました。また、平地区では発掘調査によって、平(2)遺跡を新たに確認することができました。

確認調査と並行して、令和2年度から遺構を確認した範囲で発掘調査を実施しています。今後の調査によって、かつての人の営みがより明らかになっていくでしょう。(上ノ山 拓己)



開発予定地のようす



溝状土坑(杉子沢(1)遺跡・縄文時代)



竪穴建物跡(笹ノ沢(4)遺跡・古代)
中央の黒い部分がみつかった竪穴建物跡です。

令和2年度遺跡調査報告会を開催しました！

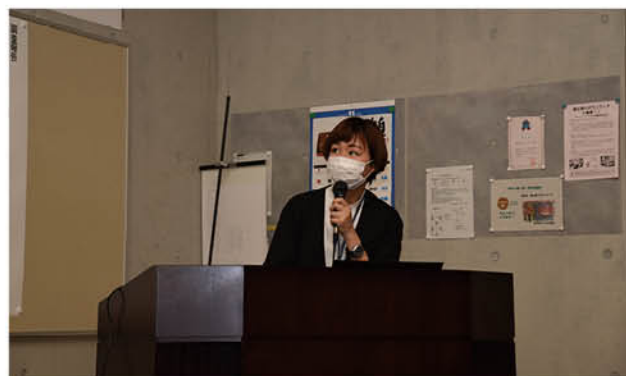
令和2年11月14日(土)に、八戸市内での遺跡発掘調査の主な成果を発信する遺跡調査報告会を定員40名で開催しました。

報告した遺跡は、令和元年度より6ヵ年計画で史跡内容確認調査を行っている縄文時代の一王寺遺跡(是川地区)、大規模な本発掘調査である平安時代の石橋遺跡(大館地区)、当市の大規模開発である八戸北インター第2工業団地予定地(上長・下長地区)です。

また、例年どおり出土品展示も行いました。令和2年度に定めた「是川縄文の日」の11月3日(火・祝)より期間を長く実施し、市民への情報公開の機会としました。

過去の報告会資料は是川縄文館のホームページに掲載しています。是非ご覧ください。

(苧坪 祐樹)



調査報告のようす



遺物展示会場のようす



是川遺跡発掘 100 周年記念企画展「^{いづみやま}泉山兄弟と是川遺跡」開催！

開催期間：令和2年7月18日(土)～9月6日(日)

令和2年は、是川遺跡が有名になるきっかけとなった^{いわじろう}泉山岩次郎・^{あやじろう}斐次郎兄弟の発掘から100周年を迎える節目の年です。是川縄文館では、これを記念した企画展を開催し、重要文化財79点を含む241点の優品を展示しました。

本展は①是川遺跡の発見、②泉山兄弟と研究者、③地域の宝から日本の宝へ、④是川縄文人を探して、⑤現代によみがえる是川遺跡の5つの内容で構成し、遺跡における兄弟の功績やこれまでの遺跡調査の成果、研究者とのかかわりなどについてわかりやすく紹介しました。

また、会期中には、昭和4年に中居の^{ていしち}低湿地や一王寺の^{かいづか}貝塚を発掘し、その成果を広く紹介した^{おおやましわ}大山柏についての講座をインターネット中継で開催しました。是川遺跡100年のあゆみについて、参加者のみなさまにより深く知っていただく貴重な機会となりました。(佐藤 ちひろ)



会場のようす



つる製品（是川遺跡）



泉山家関連資料

白神の豊かな縄文世界を展示！秋季企画展「白神山地の縄文」

開催期間：令和2年10月10日(土)～11月23日(月・祝)

この展示は、白神山地の^{とうろく}東麓（青森県西目屋村）で平成15年から平成27年にかけて行われた津軽ダム建設にともなう発掘調査の成果を取り上げたものです。17の遺跡からたくさんの遺構、遺物がみつかり、発掘調査を行った青森県埋蔵文化財調査センターの協力のもと250点の優品を集めて、白神の山あい暮らしした縄文人の文化や社会を紹介しました。

展示では、①白神山地の縄文、②ムラと文化のうつりかわり、③白神山地の縄文漆文化、④山あいの縄文人の暮らし、⑤白神の縄文人の地域交流、⑥津軽ダムの建設にともなう発掘調査の6つに内容を構成しました。縄文時代^{そうそう}草創期から晩期までのムラの移り変わりを示すとともに、山あいの環境を活かした縄文人の資源利用や、遠隔地交流による^{ひすい}翡翠やアスファルトといった物資や情報などの流通のようすを紹介しました。山あいに暮らす縄文人の精神性があらわれた^{じんめんつき}人面付注口土器などの多彩な出土品は、たくさんの観覧者の目をひきつけていました。(市川 健夫)



会場のようす



土偶（川原平(1)遺跡）



人面付注口土器（川原平(1)遺跡）

史跡是川石器時代遺跡の整備に向けて～建物の撤去と調査②～

八戸市では、是川石器時代遺跡を将来にわたって生涯学習や観光などの拠点、憩いの場として活用していく「是川縄文の里」の整備を進めており、令和元年度から縄文時代の風景へ戻すための史跡内建物の撤去工事や、建物下の遺跡の状態などを確認するための発掘調査を進めています。

令和2年度は、昭和38年に建築した是川考古館を撤去しました。考古館は、是川遺跡出土品を収蔵し、展示公開したはじめての建物で、写真記録などを十分行ったうえで撤去を進めました。その後の調査では、史跡の地山面と最大2mに及ぶ保護盛土を確認することができました。

是川石器時代遺跡は、世界遺産をめざす「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産であり、本年度はイコモス（国際記念物遺跡会議）による現地調査が行われました。最短で令和3年度の登録が見込まれることから、早期に整備を完了できるよう取り組んでいます。（市川 健夫）



撤去前の是川考古館



建物撤去後の遺跡の確認



工事・調査終了後のようす

令和2年度是川遺跡出土品保存修理事業

「青森県是川遺跡出土品」は、平成23年度に330点が重要文化財に追加指定されました。の中には、漆製品や木製品のように状態が変化しやすいものや、修理や補強が必要なものがあり、継続的に修理などを行っていく必要があります。令和2年度は、土器2点、繊維製品4点、漆製品9点、玉類21点の計36点の保存修理及び保存台の作成を行っています。

修理では、まず欠損部の細部の観察やX線撮影によって、外から見えないヒビなどがないかを確認し、クリーニングを行った後に、それぞれの状態に応じた修理が行われます。土器は、一度破片ごとに分解した後、歪みがないように接合し直し、欠けている部分がある場合は樹脂などで補います。最後に、補填部分に、本来の部分と区別がつくように色を塗って完成です。

保存修理を行うことによって出土品は本来の美しい姿をよみがえらせるとともに、安定した状態を保ちながら展示等で公開・活用することができます。大切な文化財を未来に伝えていくために、今後も少しずつ保存修理を進めていきます。（上ノ山 拓己）



1



2



3

土器の保存修理 1…修理前 2…X線で内部の状態を確認 3…欠損部を樹脂で充填し、補彩して完了



	遺跡名	調査	調査原因	調査期間	調査面積 (㎡)	種別／主な時代
市内遺跡発掘調査事業	酒美平遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R2.4.6	4	集落跡／縄文・飛鳥・奈良・平安
	大崎遺跡①	試掘調査	太陽光発電設備設置	R2.4.6～9	24	散布地／縄文
	田面木遺跡①	試掘調査	建売住宅建築	R2.4.8・9	8	集落跡／縄文・弥生・奈良・平安
	八戸北インター第2工業団地建設予定地	試掘調査	範囲確認調査	R2.4.13～11.30 R3.3.2～31	8124	散布地・集落／縄文・平安
	酒美平遺跡②	試掘調査	個人住宅建替	R2.4.21	15	集落跡／縄文・飛鳥・奈良・平安
	石ノ鉢遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	R2.4.23	14	散布地／縄文・弥生・奈良
	田面木遺跡第57地点	試掘調査	個人住宅建築	R2.5.11～15	24.5	集落跡／縄文・弥生・奈良・平安
	中道遺跡	試掘調査	個人住宅建替	R2.6.1	40.5	散布地／縄文
	松ヶ崎遺跡第20地点	試掘調査	太陽光発電設備設置	R2.6.18～22	46.5	集落跡・貝塚／縄文・奈良・平安
	狐森遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	R2.6.29～7.1	49	散布地／縄文
	市子林遺跡第24地点	試掘調査	個人住宅建築	R2.7.3～6	27	集落跡／縄文・古墳・奈良・平安・中世近世
	山内遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R2.7.27・28	12	散布地／縄文・平安
	鯉平遺跡	試掘調査	個人住宅建築	R2.8.7	0.4	集落跡・城館跡／縄文・平安・中世
	八戸城跡第49地点	試掘調査	個人住宅建築	R2.8.7・24～27	26	城館跡／縄文・弥生・古墳・近世・近代
	田面木遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R2.8.11	10.5	集落跡／縄文・弥生・奈良・平安
	八戸城跡第48地点	試掘調査	祭具庫移転建築	R2.8.19～21	22.5	城館跡／縄文・弥生・古墳・近世・近代
	菅遺跡第11地点	試掘調査	個人住宅建替	R2.9.7～9	25	散布地／縄文・平安
	八戸城跡第50地点	試掘調査	個人住宅建築	R2.9.8～10	57.5	城館跡／縄文・弥生・古墳・近世・近代
	市子林遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R2.9.16	9.5	集落跡／縄文・古墳・奈良・平安・中世近世
	市子林遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R2.9.16	6	集落跡／縄文・古墳・奈良・平安・中世近世
	法蓮林遺跡第8地点	試掘調査	個人住宅建築	R2.9.28・29	11.5	集落跡／縄文・奈良・平安
	石橋遺跡	試掘調査	個人住宅建築	R2.10.5	7	集落跡／平安
	烏館場遺跡	試掘調査	個人住宅建築	R2.10.21	15.3	散布地／縄文
	菅遺跡第12地点	試掘調査	個人住宅建築	R2.10.27	30.6	散布地／縄文・平安
	大崎遺跡②	試掘調査	太陽光発電設備設置	R2.11.16・17	36	散布地／縄文
	山内遺跡②	試掘調査	事務所建築、土留新設	R2.11.25	9.5	散布地／縄文・平安
	沢目遺跡	試掘調査	個人住宅建替	R2.12.8	9.8	散布地／縄文
	坂中遺跡	試掘調査	個人住宅建築	R2.12.17	30	散布地／縄文・奈良・平安
	八戸城跡第51地点	試掘調査	個人住宅建築	R2.12.24・25	13	城館跡／縄文・弥生・古墳・近世・近代
	松ヶ崎遺跡	試掘調査	個人住宅建築	R3.3.9	11	集落跡・貝塚／縄文・奈良・平安
沢里山遺跡	試掘調査	建売住宅建築	R3.3.11・12	72	散布地／縄文・奈良・平安	
八戸城跡第44地点	本調査	個人住宅建築	R2.4.6～17	40	城館跡／縄文・弥生・古墳・近世・近代	
石橋遺跡第12地点	本調査	長平作付	R2.5.11～8.3	1100	集落跡／平安	
田面木遺跡第57地点	本調査	個人住宅建築	R2.6.1～23	64.3	集落跡／縄文・弥生・奈良・平安	
田面木遺跡第54地点	本調査	個人住宅建築	R2.7.17～8.21	63.6	集落跡／縄文・弥生・奈良・平安	
菅遺跡第11地点	本調査	個人住宅建築	R2.10.5～9	44	散布地／縄文・平安	
八戸城跡第50地点	本調査	個人住宅建築	R2.10.7～11.16	155	城館跡／縄文・弥生・古墳・近世・近代	
松ヶ崎遺跡第11地点	本調査	長平作付	R2.10.12～11.13	1003.3	集落跡・貝塚／縄文・奈良・平安	
菅遺跡第12地点	本調査	個人住宅建築・外構工事	R2.11.17	30.6	散布地／縄文・平安	
一王寺遺跡	確認調査	史跡内容確認調査	R2.8.3～10.9	328	散布地・集落／縄文・弥生・奈良・平安近世	
八戸城跡第45・46・47地点	本調査	道路改築	R2.5.7～12.15	1464	城館跡／縄文・弥生・古墳・近世・近代	
受託事業	笹ノ沢(2)遺跡	本調査	工業団地開発	R2.9.7～12.3	2323	集落／縄文

